





表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
<p>つり 替 た 市 中 の 商 人 (3枚続) 一 一 呉服、せった、祭文、道具屋な ど18商人露店風景</p>	<p>重 政 海老林 </p>	<p>[明治元年 12月]</p>	<p>X・ 2-(354)</p>
<p>か 開 化 因 循 興 廃 鏡 (3枚続) 一 一 新旧商物優劣の争い (擬人化) 西洋料理、よこ文字、など</p>	<p>昇 齋 一 景 人形町具足屋</p>		<p>// 2-(355)</p>
<p>戻 戯 瀉 世 狂 画 (2枚続) 一 一 小判、錢を排泄</p>			<p>// 2-(356)</p>
<p>夫 婦 合 躰 欲 の 獣 一 一 名おタメごかし (横大1枚) (摺物) たて髪に小判、錢の怪獣図</p>			<p>// 2-(357)</p>
<p>欲 と い ふ 獣 貧乏国からいけどった一 一 名金あらしと言 (横大1枚) 尻尾の先は小判</p>	<p>一 勇 齋 国 芳 戯 画 </p>		<p>// 2-(358)</p>
<p>開 獅 子 と い ふ 獣 (横大1枚)</p>			<p>// 2-(359)</p>
<p>天 加 羅 渡 利 泡 喰 鳥 (2枚続) 一 一 羽に小判混る、稲穂は錢</p>			<p>// 2-(360)</p>
<p>かんぜん長悪しんがくばなし いりよふな物いらぬものゝあらそいの図 (2枚続) 小判、錢など X2-(362)に同じ</p>	<p>一 鷗 齋 芳 藤 </p>		<p>// 2-(361)</p>
<p>かんぜん長悪しんがくばなし いりよふな物いらぬものゝあらそいの図 (2枚続) X2-(361)に同じ</p>	<p>一 鷗 齋 芳 藤 </p>		<p>// 2-(362)</p>




表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
うっ 銭 太平 ^{きん} 金相場合戦 (2枚続) ——金貨、銭貨の合戦図	歌重戯畫 	[慶應 4年 2月]	X- 2-(363)
一寸見なんしことしの新ばん —— (3枚続のうち2枚、右葉欠) X2-(365)に同じ X2-(346)に3枚続揃あり	惺々齋、撓齋、 ツキチ大金	[慶應 3年 3月]	// 2-(364)
一寸見なんしことしの新ばん —— (3枚続のうち2枚、右葉欠) X2-(364)に同じ X2-(346)に3枚続揃あり	惺々齋、撓齋、 ツキチ大金	[慶應 3年 3月]	// 2-(365)
諸 国 蠟 燭 市	了 古 	[明治元年 8月]	// 2-(367)
米 商 大 州 屋 之 図 (2枚続)	玉 齋 	[明治元年 7月]	// 2-(368)
太 物 屋 店 先 之 図 (2枚続)			// 2-(369)
世 の 中 の う ら な い (2枚続) ——大道の女易者 (机上に算木と 銭) X2-(391)に同じ 左上角など破損			// 2-(370)
狸 の 戯 (2枚続) ——佐渡国同三狸と茂林寺文福狸の 争い、借金証文あり			// 2-(371)
飯 茶 屋 店 先 図 (2枚続) ——「隅田川しろ酒壺合八十文」 などあり X2-(373)に同じ			// 2-(372)
飯 茶 屋 店 先 図 (2枚続) ——X2-(372)に同じ (但しアレ)			// 2-(373)
お そ ろ し し の け だ も の (2枚続) ——唐獅子の見世物、小判5枚			// 2-(374)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
道成寺つりがねこんりう (2枚続) ——釣鐘をすべて銭で作る	芳 年 戯筆 正文堂	[文久元年 12月]	X- 2-(375)
当 時 物 輪 集 会 (2枚続)			〃 2-(376)
戯 画 放 生 会 (2枚続) ——各種のとり (ものとり、あわく いとり……) を仕掛にて捕る図			〃 2-(379)
当 盛 茶 ば ん 狂 言 (2枚続) ——大八車に小判、銭をのせて運ぶ 文久通宝の絵、丁髷に筒袖、 ズボンの男など			〃 2-(380)
大 そ ふ じ (2枚続) ——金包らしきものを前に3人協議 (龍吐水のポンプ桶にも”通用 金”と銭の絵) つり鐘とポンプ に男たちが群がる図			〃 2-(381)
手 駒 な し 詰 将 碁 (2枚続) ——獺師と庄屋との対局に狐が立合 う狐拳見立			〃 2-(382)
とも けん くわ 友 喧 嘩 (2枚続) ——按摩の乱闘 銭散る			〃 2-(384)
官 金 取 立 寄 合 (2枚続) ——検校等の寄合い			〃 2-(385)
こころのゆめ よし おし かみ 心 夢 吉 凶 鏡 (2枚続) ——耳、目、鼻、口、色の五慾の 善・悪形	よし藤 ⊙	[慶應 3年 3月]	〃 2-(386)
当 り 圖 講 母 子 の 寄 合 (2枚続)			〃 2-(387)
花 見 の 戯 (2枚続) —— (休み茶店の脇に銭束) 花見の情景			〃 2-(388)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
うき世のゆめ(2枚続) ——手枕の長者がみる夢、小箆筒			X・2-(389)
新板どふけ絵(2枚続) ——塗師の催促に千両箱を示す			〃 2-(390)
世の中のうらない(2枚続) —— X2-(370) に同じ			〃 2-(391)
ものごの 数 奇 十 人 遊 (2枚続) ——道楽十種 (盆栽、将棋、釣…) 茶屋遊の相手は小判の顔	一宝齋芳房 画 馬喰四 木屋 板 彫兼、小泉彫兼	[安政 6年 4月]	〃 2-(392)
りう 流 行 諸 願 請 取 所 (2枚続) ——上段、清正公大神と太郎稻荷の首引	光齋戯画 ——光齋芳盛 羽 伊勢庄	[慶應 3年 10月]	〃 2-(393)
道化十二支の見立(2枚続) ——午の盗賊、千両箱を小脇に抱く 丑の足芸で手に持つ扇子に持○ の印、未は洋服に帽子とステ ッキ、など			〃 2-(394)
士 族 の 商 法 (2枚続) ——菓子屋の店内情景	画工 永島辰五郎 編集出板 長谷川忠兵へ	明治10年 3月15日届	〃 2-(395)
浮世風呂一ト口文句(2枚続) ——(番台へ浴客が銭をおく) 銭湯の情景			〃 2-(396)
せん 洗 作 夏 とんだ 霊 宝 (2枚続) ——泉岳寺のもじりで忠臣蔵を題材 とし、「しまのさいふの嶋黄金 佛」に小判を貼り合せた像など 左葉の右下角に赤いしみ	広重戯さく 倉	[明治 2年 4月]	〃 2-(397)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
泰平海世直競漕 —— (3枚続のうち2枚)、右葉欠 (表題、作者名などはすべて右 葉にあり、「明治開化期の錦 絵」により補筆) 公債証書、天保銭など	福田 保	明治18年 9月廿日届	X- 2-(398)
空中夢想 出雲之集会 (2枚続) ——天秤と小判	たね貞 戯筆 編輯画工兼発行者 大森 清風 印刷者大槻銑次郎 発売所 艶文社	明治23年 7 月18日印刷 全21日出版	〃 2-(399)
よく 欲 の 戯 ち から 競 (2枚続) ——米俵と紙幣の首引	画工出板兼ル 児玉 又七	明治13年 7月届	〃 2-(400)
諸商人迷子さがし (2枚続) ——小銭拂底の風刺 (つり銭用小銭不足)	画工兼出板人 林 吉蔵	明治13年 5 月廿日届	〃 2-(401)
子供あそび百ものがたり (2枚続) ——お化け遊び、米俵の化物見立に て目、口に銭をつける			〃 2-(402)
子供遊宝の当物 (2枚続) —— (賭物は金銭でなく飴類か) 子供が賭けごとをしている情景			〃 2-(403)
ば 破 家 利 口 振 分 雙 六 —— (2枚続) ”金を溜る人”に百両包	一勇斎国芳 画 祥錦堂 梓		〃 2-(404)
日本たいむす預言 (2枚続) ——翌十九年の豫言、「日本橋の芸 妓吉田や喜久次銀行をたてる」 に千両箱、紙幣など	ポンチ庵清親 画工兼出版人 井上 吉次郎	明治18年 12月届	〃 2-(405)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
諸 藝 人 賦 金 (2枚続) ——同年一月八日付東京府知事布告 種々の芸人から月々取立てる賦 金の額を示す。 X 2-(419) と 同図 (ただし色つき) 37頁参照	上州屋 重蔵	[明治 8年 1月]	X・ 2-(406)
焼 死 大 法 会 図 (2枚続)			〃 2-(407)
浪 花 役 者 花 咲 春 千 両 万 給 實 賑 —— (豎大1枚) 樹上へ役者を配す	六花園芳雪 錦正堂		〃 2-(408)
世 の 中 い ろ は た と へ (2枚続) ——いろはカルタちらし画、絵札、 字札を並べ18字、表題脇に上と あり、余韻もあるか?			〃 2-(409)
百 気 夜 興 化 物 評 判 記 —— (横大1枚) 銭図			〃 2-(410)
人 間 一 生 入 用 勘 定 —— (横大1枚) X2-(450)参照	版元 吉田屋小吉		〃 2-(411)
明治十四年十一月十五日ヨリ 世 界 轉 覆 漸 (2枚続) ——地震洪水など天災予告、札箱を 抱えて逃げる鯨、価五銭	画工編輯兼出板人 松井 栄吉	明治14年 10月 3日届	〃 2-(412)
救 助 金 之 図 (2枚続) ——火災罹災者に救助金を支払う 情景	惺々曉斎	明治11年 4月 4日届	〃 2-(413)
富 国 歩 ミ 初 メ (横大1枚) ——船に数々の商品を満載、国産品 奨励の趣旨 136 頁参照	出板人 佐田翠眼	明治13年 出板	〃 2-(414)
勧善道中獨案内 善惡兩道中記トモ云 —— (2枚続)	画 作 為永春水事長治 丁子屋平兵衛		〃 2-(415)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
善悪両道迷所獨案内記 (横大1枚)	英 俊 画 板元佐野屋市五郎		X・2-(416)
とく せい のぼり ふう (横大1枚、墨刷) ——物価上昇風刺、		慶應 2年 寅 夏	〃 2-(417)
ひん ぶく ころ の さだめ 貧 福 心 之 定 (横大1枚) —— (桃山斎花居留作)			〃 2-(418)
しよ げい にん ぶ きん 諸 藝 人 賦 金 (2枚続、墨刷) ——X 2-(406) と同図、但し色なし 賦金高の部分のみに赤・青色	上州屋重蔵 板	[明治 8年 1月]	〃 2-(419)
大 しん ばん ばけ もの とび まはり だく 新 板 化 物 飛 廻 双 六 —— (豎大1枚) 「ぜに」	井筒屋文助 板元		〃 2-(420)
教 訓 善 悪 鏡 (一) (上下2段刷) —— X2-432 まで揃物 上……悪、下……善	昇斎一景 蔦吉 板	[明治 5年 6月]	〃 2-(421)
教 訓 善 悪 鏡 (二) (上下2段) ——上……悪、下……善	昇斎一景 蔦吉 板		〃 2-(422)
教 訓 善 悪 鏡 (三) (上下2段) ——上……悪、下……善	昇斎一景 蔦吉 板	[明治 5年 6月]	〃 2-(423)
教 訓 善 悪 鏡 (四) (上下2段)	昇斎一景 蔦吉 板	[明治 5年	〃 2-(424)
教 訓 善 悪 鏡 (五) (上下2段)	昇斎一景 蔦吉 板	[明治 5年 6月]	〃 2-(425)
教 訓 善 悪 鏡 (六) (上下2段)	昇斎一景 蔦吉 板	[明治 5年	〃 2-(426)
教 訓 善 悪 鏡 (七) (上下2段)	昇斎一景 蔦吉 板	[明治 5年	〃 2-(427)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
教訓善悪鏡(八)(上下2段)	昇齋一景 蔦吉板	明治5年	X-2-(428)
教訓善悪鏡(九)(上下2段)	昇齋一景 蔦吉板	明治5年	〃 2-(429)
教訓善悪鏡(十)(上下2段)	昇齋一景 蔦吉板	明治5年	〃 2-(430)
教訓善悪鏡(十一)(上下2段)	昇齋一景		〃 2-(431)
教訓善悪鏡(十二)(上下2段)	昇齋一景 戯墨 蔦吉板	[明治5年 4月]	〃 2-(432)
江戸名所道戯尽三十五 赤坂の景 ——髪結床、棚の上に銭を積み重ね あり、NOは「一三を十五」と訂 補あり	広 重 金 辻岡屋	[万延元年 2月]	〃 2-(433)
妙伝主十六利鑑 たん き わ せん じゃ 短気輪損者 ——記事中に“堪忍五両……”	一魁齋芳年	[慶應2年 5月]	〃 2-(434)
妙伝主十六利鑑 かり こし せん じゃ 貸越損者 ——「借金の淵」の立札	一魁齋芳年 ㊦	[慶應2年 5月]	〃 2-(435)
浮世多登恵(続絵のうち1枚) ——(天、地、左辺に太棒あり) “舌の長い人”“目から鼻にぬ ける人”“女にまかれる人”な ど7人の戯画、特に金銭とは 無縁 X 2-(470) と合わせて2枚続き 表題は右部分にあり	芳 盛 今 多吉	[文久3年 5月]	〃 2-(436)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
しん板どうけ ——三分判、2朱判等が駕籠を曳き 商人の帳簿を釣り上げる X2-(438)に同じ	一英斎艶長 辻亀板	[慶應2年 9月]	X・2-(437)
しん板どうけ ——X2-(437)に同じ	一英斎艶長 辻亀板	[慶應2年 9月]	〃 2-(438)
勘略夢の枕 ——商人の夢見	芳虎 介	[万延元年 3月]	〃 2-(439)
浮世はゆめだ ——”ものもち”の懐中より金銀抜 け出して日傭取と船乗りの酒盛 りの周りを踊る X2-(441)、(442)に同じ 刷は X2-(442) が良好			〃 2-(440)
浮世はゆめだ ——X2-(440)、(442)に同じ			〃 2-(441)
浮世はゆめだ ——X2-(440)、(441)に同じ 摺り良			〃 2-(442)
流行猫の戯 おしゅん伝兵衛身の臭姪色時 ——揃物外題を小判形の中に記す X 2-443-445 揃物	一勇斎国芳 茶		〃 2-(443)
流行猫の戯 かが見やな草履恥の段 ——X 2-443-445 揃物	一勇斎国芳 茶		〃 2-(444)
流行猫の戯 袂糞氣罵責段 ——X 2-443-445 揃物	一勇斎国芳 茶		〃 2-(445)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
善 悪 し あ ん さ い 中 ——持丸のしあん			X・ 2-(446)
道 具 見 立 い ざ り 勝 五 郎 ——長持の勝五郎を筆筒が曳く			〃 2-(447)
と て つ り 拳 ^{けん} —— (猪口山人戯記) 錢相場替の 風刺、天保錢を小錢が圧倒して いる図			〃 2-(448)
名 に こ と も な い し ょ う ぶ し ——裸の毛槍持と錢をもつ公家			〃 2-(449)
人 間 一 生 入 用 勘 定 ——千両箱を積み上げし前に楽隠居 すわる X2-(411) 参照～同類のもの	一 猛 齋 芳 虎 清		〃 2-(450)
大 福 根 * ——表題は「大福長者」 板元は柱層をまねた中に ^{めい} ^か ^ね * 千両箱、長者など 「根福大」	瓢 金 舎 一 寸 子 板 元 和 為		〃 2-(451)
帳 付 婆 戯 画 ——帳付婆が庶民の願いごとを聞き 錢をとるの図			〃 2-(452)
目 出 度 ^{しめ} ^{ます} 西 の 歳 ——「直段下直にとくゐを ^西 」の 如きとり尽し、 「あるかわらずとしお ^西 」 「相性ことよきよめを ^西 」 中央に鶏の画	橘 蝶 楼 貞 房 甲	(嘉永 2年)	〃 2-(453)


表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
子 供 判 じ 絵 ——葉種看板、稽古娘、梅盆栽、小判をのせた掌、五十貫文の石を持上げる男、茶めしの立売、乳母の乳を吸う児、徳利を運ぶ下女、下部に福豆で遊ぶ子供——判じ絵か	一梅斎芳春 金	[万延元年 6月]	X・ 2-(454)
浮 世 た と え ——左辺絵柄中断ともみえ、続絵の一部か “にたものふうふ” の姥、指を丸めて銭を示す、諺語づくし (X2-468、X2-476) に同表題あり、1枚絵の揃物			〃 2-(455)
い せ お ん ど ——馬上に3人物、馬方の着物に銭模様、筒袖・ダンプクロの人物あり、明治か？			〃 2-(456)
浮 世 夢 は な し (続絵のうち1枚) —— X2-458 に画家名あり、左辺大八車の先方なし、小判、千両箱 X2-458 に同じ	(春 英) 冨 伊勢兼	[文久 3年 3月]	〃 2-(457)
浮 世 夢 は な し (続絵のうち1枚) —— X2-(457) に同じ 摺りはこちらが良好	春 英 冨 伊勢兼	[文久 3年 3月]	〃 2-(458)
千 代 寿 商 は ん 昌 ——倉へ米俵を運び入れ、馬の背に千両箱	周 磨 築地大金 		〃 2-(459)
胸 算 用 道 外 早 和 利 ——上段数表は洒落尽し “かねげにの部” は “南ぜんじの三文” “うゑ木の万両” など	一勇斎国芳 並木湊小 版		〃 2-(460)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
教訓善悪小僧揃 (1枚に上下2段 —の内<上> 横小判1枚) 道端の熊の胃売のゴザに銭 X2-(462)、(529) 参照	一勇斎国芳 	(安政 4年 正月)	X- 2-(461)
教訓善悪小僧揃 (1枚に上下2段 —の内<下> 横小判1枚) X2-(462)、(529) 参照	一勇斎国芳 	(安政 4年 正月)	〃 2-(461)
教訓善悪小僧揃 (次号と上下一枚 —摺りの上、横小判1枚) 路上に財布、小判落ちてあり X2-(461)、(529) 参照	一勇斎国芳 	(安政 4年 正月)	〃 2-(462)
教訓善悪小僧揃 (前号と上下一枚 —摺りの下、横小判1枚) X2-(461)、(529) 参照	一勇斎国芳 	(安政 4年 正月)	〃 2-(462)
狸の戯画 せんきもち、狸の七ふく神 —上段はせんきの狸を医者 の狸が見舞図、 下段は七福神見立の5狸	一勇斎国芳 		〃 2-(463)
さかなのはんじもの (中) —魚名の判じ物、1分判、天保 銭、文銭あり	国 盛 辻 安		〃 2-(464)
ひるきのはんじもの —役者名の判じ絵	国 政	[慶應 4年 2月]	〃 2-(465)
当時物輪集會 (続絵の1部か) —ものはづけ、「四文銭」など、 「はやるものは西洋調練」など			〃 2-(466)
豊年の狂画 —米俵の上で百姓が小判をもつ			〃 2-(467)
浮世たとえ —俗諺を図にす、「楽あれば…」 に千両箱 X2-(455)、(476) と揃物			〃 2-(468)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
当世宝の住かへ ——蔵前、江戸から金銭の出て行く 風刺			X・2-(469)
浮世多登恵 —— X2-(436) と合せて2枚続き (うち右半分)	芳 盛 今 多吉	[文久3年 5月]	〃 2-(470)
大日本六十余州の内 五畿内より中国筋あてももの 中国すじ— ——次号 X2-(472) も揃物のうち 銭図あり	国 輝 ⊕	[文久2年 4月]	〃 2-(471)
中国すぢあて物 五 —— X2-(471) と揃物	国 輝 ⊕	[文久2年 4月]	〃 2-(472)
流行当破地軒 ——続絵の一部か、大金持(千両 箱)と大やくもちの組合せ			〃 2-(473)
江戸名所 はんじもの ——城内よりこぼんを擲る図ほか	重 宣 辻 安	[安政5年 5月]	〃 2-(474)
地口 はんじもの ——「これを地口にはんじてごら ん」とある、洋服の男あり 大巾着を大八で運ぶ図			〃 2-(475)
浮世たとえ —— X2-(455)、(468) と揃物			〃 2-(476)
俗諺づくし(小1枚) ——X2-477~489、493 まで揃物(一 部重複あり) X2-483に極印(慶應2年9月)	惺々狂齋 ⊕		〃 2-(477)
俗諺づくし(小1枚) ——行力(独結より金を出す)	惺々撓齋		〃 2-(478)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
俗 諺 づくし (小1枚) —— 銭ヲヘガス人、爪へ火をともす 人に銭の図	撓 斎		X- 2-(479)
俗 諺 づくし (小1枚) —— なす時の焰魔かほ、かりる時の 地藏顔 梓外白地に——七八の数字	狂 斎		〃 2-(480)
俗 諺 づくし (小1枚) —— X2-(480) に同じ	狂 斎		〃 2-(481)
俗 諺 づくし (小1枚) —— あみ陀の光も金次第	惺々狂斎		〃 2-(482)
俗 諺 づくし (小1枚) —— X2-479 に同じ、但し色違い	撓 斎	[慶應 2年 9月]	〃 2-(483)
俗 諺 づくし (小1枚) —— 君をおもふ、身を思う	惺々狂斎		〃 2-(484)
俗 諺 づくし (小1枚) —— 猫に小判	惺々狂斎		〃 2-(485)
俗 諺 づくし (小1枚) —— 果報は寝てまで	惺々狂斎		〃 2-(486)
俗 諺 づくし (小1枚) —— X2-478 に同じ	惺々狂斎 若狭屋		〃 2-(487)
俗 諺 づくし (小1枚) —— 「盗人にをいせん」	狂 斎		〃 2-(488)
俗 諺 づくし (小1枚) —— 佐渡国 同三狸	惺々狂斎		〃 2-(489)
た と る 尽 —— 猫に小判、ほか	泉 寿写 蕙翁画撰		〃 2-(490)
当 時 流 行 い ろ は 壁 [響]			〃 2-(491)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
今 古 狂 句 合 (大錦へ横に2枚摺) ——右上に小判図	立 祥、 茂 齋 若与 板	[慶應 2年 8月]	X- 2-(492)
俗 諺 づ く し (小1枚) ——“あまり物には福が有” (残飯 の中に小判) 枠外に——九二	狂 齋		〃 2-(493)
泰 平 楽 寝 兎 夢 <small>たい へいの らく ね うさぎの ゆめ</small> ——兎飼にて十万両儲け千両箱を 積む	鮮齋永濯 いせ茂	[明治 6年 4月]	〃 2-(494)
大 金 儲 (続物の内1枚) ——右辺の絵柄中断、シリツ同盟 社長小判を懐中へ			〃 2-(495)
当 世 し り と り 文 句 ——“猫の ^{おんらい} 庇頼二円より” “札は神功 ^{しんこう} 恵比寿さま” など	画作兼出版人 沢 久次郎	明治15年 3月届	〃 2-(496)
飲 [欲] のたわむれ兎の相場 <small>よく</small> [欲] の た わ む れ う の 相 場 ——兎飼による金儲けの図 <small>あがりさがり</small>	芳 虎 丸 鉄	[明治 6年 4月]	〃 2-(497)
麻 疹 ま じ な い、 な い な い 尽 し ——上段「為 ^{まじない} 麻疹房事」番附仕立 下段「祭文風ないない尽し」 (祭文読みに錢を拂って買う図)	芳 盛		〃 2-(498)
夢に屁ふむ、臍くり金 (小横1枚)			〃 2-(499)
金があつてよふつかわんひとりごと、 金がないのにつかひたがるひとりごと —— (小横1枚)			〃 2-(500)




表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
道外 浄瑠璃尽 —— (上下2図1枚刷、各小横1枚) 上「箱根靈現」下「忠臣講釈」	一勇齋国芳 	[安政 2年 12月]	X・ 2-(501)
教訓善悪図解 (大錦へ上下2図1枚刷、各小横1枚) ——上「 <small>たなこ めぐ さ はいにん</small> 店子ヲ恵む差配人」 下「 <small>よく みかき さ はい にん</small> 愆深差配人」	画工 月岡米治郎 両道人芳年 出板人綱島 亀吉	明治13年 11月届	〃 2-(502)
こつけい 戯双帯一 (権平が種まく之哥) (小横1枚)	芳 光 田中 安 板		〃 2-(503)
芝居小道具 (横1枚) —— (梅ヶ枝に用いる泉水と小判 の作り物) 小道具の一覧図	春 章 		〃 2-(504)
ふう りう きやう じ あわせ 風流狂字会 (横1枚) ——上下8区分図、 ハ……此金には主がないか	一勇齋国芳 		〃 2-(505)
たう 京 八 卦 —— “月宮殿の金吹井戸” に小判 噴上図	惺々暁斎		〃 2-(506)
辻うらはんだん ——64区割 (8段8列) 銭6枚の表裏組合せによる占い	春 暁 作 萬 四 版		〃 2-(510)
新板つい物道行つくし ——ぜに一さつ、小ばん一ねこ、う ちは一七りんなどを男女の道行 に見立、16図 X2-(514)には「松栄板」とあり X2-(514)に同じ	国 政 画工 竹内 栄久 出板人松井 栄吉	明治14年 10月21日届	〃 2-(513)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
新板つい物道行つくし ——X2-(513)に同じ、但し色調不良 上部の「松栄板」は(513)に なし	国 政 松 栄 板 画工 竹内 栄久 出板人松井 栄吉	明治14年 10月21日	X・ 2-(514)
日清戦争笑楽画会 (紳士の旅行、送りもの) ——送りものにまゆ玉仕立	清 親 具足屋 版 臨写印刷兼発行者 福田 熊治郎	明治28年 印刷発行	〃 2-(515)
社会幻燈 百撰百笑 ——(「山師の笑談」骨皮道人)	清 親 印刷兼発行者 松木 平吉	明治29年 1月18日 印刷 同23日発行	〃 2-(516)
応需 暁斎楽画 第七号 貧福出替り之図 ——善玉、悪玉が夫々糸を引き、 明暗を分ける	(暁 斎) 板元 ① 沢 村 彫 銀	[文久 2年 9月]	〃 2-(517)
き も つ ふ し ——大判1枚をかついで持出す図			〃 2-(518)
三途川婆願事戯画 ——願事の1部絵文字	——鵬斎芳藤 文 板		〃 2-(519)
風流花見の戯			〃 2-(520)
神事福来金盛 ——小判、錢をあげて拝む 左右下隅切レ	芳 虎	[慶應 3年 12月]	〃 2-(521)
千代田稻荷感応図	国 綱 ✕	[文久 3年 7月]	〃 2-(522)
不動開帳祈願戯図	芳 虎	[明治 6年]	〃 2-(523)
古人狂歌集	魚 主 図		〃 2-(524)









表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
流行世なをしけん ——鉄炮火師、車りき、飯もり遊女 3人の狐拳、車力の前に銭			X・2-(525)
納る時をまつ尽し ——早飛脚、茶屋女に文を届ける			〃 2-(526)
道外国性爺 ——諸道具(大工、たんす等)加勢 国性爺は千両箱を手にして打つ			〃 2-(527)
教訓善悪小僧揃(横小1枚) ——X2-(461)参照、金魚売	一勇斎国芳 	[安政4年 2月]	〃 2-(529)
五十三次内 程かや(横小1枚) ——鏝銭、虫損あり	国郷  若与板	[安政元年 7月]	〃 2-(529)
童戯武者尽(大錦に上下2枚摺) ——X2-533まで揃物、渡辺綱、 弁慶、見世物に客が銭を差出す 虫損あり	広重  若与板	[安政元年 8月]	〃 2-(530)
童戯武者尽(上下2枚) ——俵藤太	広重 	[安政元年 8月]	〃 2-(531)
童戯武者尽(上下2枚) ——金時、与一、金時豆を売る買人 (1ッ目小僧)の手元に銭	広重  若与板	[安政元年 12月]	〃 2-(532)
童戯武者尽(上下2枚) ——銭引、(鎧の修理)	広重  若与板	[安政元年 8月]	〃 2-(533)
浄る理町繁花の図 ——X2-(536)と揃又は続、露店と見 世物のうちに小判、小粒を並べ て売る店	広重 	[嘉永5年 6月]	〃 2-(534)
浄る理町繁花の図 ——X2-(534)と揃または続、 袖萩(門付)に銭を与える	広重 	[嘉永5年 6月]	〃 2-(536)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
亥の春夏三題咄当時新作 大川端百本枕の場			X・2-(538)
和人唐人首引競 ——賭金か小判風のもの3枚			〃 2-(539)
機嫌競 賤妻、破落戸 ——(上下に2枚摺) 破落戸の記事は柳亭種彦作 賤妻の脇に銭をおいて酒をのむ	芳年 戯墨 彫工 岡		〃 2-(540)
弘化三丙午産出世吉瑞鏡(横1枚) ——十六菊紋を吉瑞の鏡とす	一猛齋芳虎 伊勢善正 板		〃 2-(541)
開化幼早学問(上下2枚摺) ——上、下は各さらに左右2枚の図 にわかれる、「無慈悲の吝坊は 宝の番人」として、ゑびす大黒 を縛り千両箱に坐る吝坊 宝価壹錢五厘	梅松 国政 出板人 山本平吉 編輯人 竹内栄久	明治9年 8月21日届	〃 2-(542)
諸 職 吾 澤 錢 (2枚続) ——鯨に向て諸職商人等申立			〃 2-(543)
地 震 鯨 絵 (2枚続) ——江戸と信州との鯨を人々おさ える図			〃 2-(544)
地 震 用 心 の 歌 ——避難野宿図			〃 2-(545)
平 の 建 舞 ——「平」字を立てる根元に小判、 働くは鯨			〃 2-(546)
命しらずのごう欲 ——地震で潰れた家の中で柱の下敷 になりつつ銭を拾う			〃 2-(547)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
地震世直図 ——人間の異り絵、 道歌(地震動吟詠)、大工百両 包を掌にす			X- 2-(548)
鯨 大 火 場 焼			〃 2-(549)
ぢしんみやうさく 下徳参一横八百八丁			〃 2-(550)
大 鯨 江 戸 の 賑 ひ ——大鯨が鯨の如く汐を吹き上げる 中に小判混る			〃 2-(551)
地 震 よ け の 歌 ——天上より大黒天小槌をふって 金銭を降らす			〃 2-(552)
鯨 の 儲 討 ——左辺数行分アレにて読めず			〃 2-(553)
鯨 の け ん く わ ——地震の被害をうけた辻君らが鯨 をこらしめる、銭が散乱			〃 2-(554)
難 義 鳥 ——地震後に現れた怪鳥、羽は諸 商品で、鯨を捉えて飛ぶ			〃 2-(555)
地 震 風 刺 図 ——X2-(559)に同じ、鯨が切腹して 金包を腹中より出す			〃 2-(557)
鯨 絵 ——鯨が金持、盲人(検校)から金 を吐き出させて職人らがこれを 拾う			〃 2-(558)
鯨 絵 ——X2-(557)に同じ			〃 2-(559)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
即 席 鯰はなし ——地震で被害を受けたものが鯰 を打擲			X・ 2-(560)
は う た づ く し ——編笠を冠った鯰の祭文付に職人 風の男が銭を渡す			〃 2-(561)
鯰 の 功 罪 ——四ツ割の画面に、職人らに金を 与える図、退治される図などを 併べて物語風にまとめあり			〃 2-(562)
鯰 舞 々 の 洒 落 (横1枚) ——鯰を猿廻しの如く紐をつけて舞 わし千両箱を横におく金持が財 布から祝儀を取り出す景			〃 2-(563)
鯰 の 首 引 (横1枚) ——鯰と鹿嶋神との首引にそれぞ れの後援人			〃 2-(564)
鯰 の か ば 焼 大 ば ん 振 舞 (横1枚) ——大鯰を鹿嶋明神がさばき、糸 びす天が焼き、金比羅が皿を用意			〃 2-(566)
生 捕 ま し た 三 度 の 大 地 震 (横1枚) ——親子3疋の鯰を鹿嶋神生捕っ てかば焼店へ拉致			〃 2-(567)
瓢 箪 鯰 仮 宅 之 賑 (横1枚) ——大工、屋根屋が小判をもって 仮宅で遊興の図、鹿嶋神が大鯰 をとり押えている			〃 2-(568)
地 し ん と う 化 大 津 糸 ぶ し (横1枚)			〃 2-(569)
世 ハ 安 政 民 之 賑 (横1枚) ——金持、座頭から鯰が金を出さ す図			〃 2-(571)
(注) 鯰絵は50頁、132頁も参照			

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
持 ○ 長 者 ――表題は「長」者の裏向き草書体 地震で金銭を排泄の図			X・2-(577)
持 ○ 職 人 長 者 ――上方で金持が金銭を排泄、下方 は大工らはその銭を持つ、表題 の長は長のウラ向き			〃 2-(578)
持 ○ 職 人 長 者 ――X2-(578)に同じ			〃 2-(579)
持 丸 長 者 ――金持ら金銭を吐き出すを大工、 左官が奪い合う			〃 2-(580)
持 ○ 長 者 腹 くら べ ――長者3人金銭を排泄			〃 2-(581)
持 ○ 長 者 黄 金 の も ち つ き ――土蔵、千両箱を臼にて搗く			〃 2-(582)
ひめはじめ 宝のよめ入り (3枚続) ――島台に小判のなる松の盆栽	一勇齋国芳 通三 遠彦	[安政 3年 10月]	〃 2-(585)
千代の寿目出度づくし (3枚続) ――婚礼、安産、棟揚、七五三、 初春、富貴繁栄の6項分割、 富貴繁栄に千両箱と小判、金の なる木	一恵齋芳幾 祝筆 正文堂	[安政 5年 9月]	〃 2-(593)
貧病一毒一味配財 黄金湯 施薬所 ―― (3枚続) 大黒天の施薬に 与三郎、梅ヶ枝、鬼王らが集る	一恵齋芳幾 一龍齋芳豊 辻 安	[万延元年 10月]	〃 2-(594)
出雲の大社 八百萬神どふけあそび ―― (3枚続) 中央に大黒天、その背後に小判	菊水茂広狂 畫		〃 2-(597)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
ひめはじめ 宝のよめ入り (3枚続) ——X2-(585)に同じ	一勇齋国芳 ㊦ 通三 遠彦	[安政 3年 10月]	X・ 2-(603)
萬作豊年おどり之図 (3枚続) ——土蔵前に米俵、千両箱を積み、 その上に恵比寿、大黒、人々 鉦、三味、太鼓で踊る	五龜亭貞房 ▲ 森屋治兵衛		// 2-(613)
入 増 盛 算 (3枚続) ——X2-(631)と同じ (但し、ゑびす の帳面及び色彩に一部異なる) 金円、数字を並ぶ	惺々暁齋 図 勝文齋 作 編輯兼出版人 福田熊次郎 彫工 岡 輝一		// 2-(630)
入 増 盛 算 (3枚続) ——X2-(630)と同じ	惺々暁齋 図 勝文齋椿月 写 編輯兼出版人 福田熊次郎		// 2-(631)
文政四年辛巳六月阿蘭陀人持渡 駝 之 図 (2枚続) ——らくだに七福神を配す、(らく だの背に千両箱を合掛とす)	国 安	(文政 4年)	// 2-(636)
當御開帳利益の友綱 (2枚続)	国 まさ 司 伊勢兼	[明治 6年 3月]	// 2-(641)
神武天皇まつり (小色紙1枚) ——ゑびす大黒が瓶子をのせた輿を 担いで鳥居を通る	国 義		// 2-(695)
見立荒獅子図 ——大黒を荒獅子男之助に、鼠が 仁木で先代萩床下の見立	五雲亭貞秀 ト		// 2-(790)
家職大明神略縁起 ——千両箱の上に秤、そろばん、 曲尺などを千手像の如く持ちし 神体、全面にはゑびす大黒	玉蘭 貞秀 ト		// 2-(792)


表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
しんばん甲子あそび ——大黒と使徒鼠に猫を配した玩具 絵、1枚を上中下3段に区切る 枠外の刊記「…月十六日届…」 のほかアレにて不明	国 政 画 松 栄 板		X・2-(798)
心学ひとくち商内 ——小児に教える大黒、三枚布団の 上に11人中	歌川 美丸 龠		〃 2-(853)
新板かいこやしない草 ——上部扇形コマは“宝年当かい こ”としてゑびす大黒、本図は 白布を竿秤にかけける婦人とこれ をみる婦人の2人	よし藤		〃 2-(855)
筑波山麓蚕影権現縁日図 ——上部に神体3尊、下2/3はゑび す大黒に男女3人の信者	菖 溪 		〃 2-(860)
腕 競 福 助 (横1枚) ——大黒と腕相撲の福助、行事は ゑびす	文 浪 ⑪ 江崎屋		〃 2-(882)
あとみよそ和歌 ——寿老人、布袋、弁天 画者名なきは或は続絵か	茶		〃 2-(896)
善心悪心大黒掃きわけ図 (細判1枚) ——宝珠に善心と悪心を書きわけ、 悪の分を大黒が箒で掃く	須藤 板		〃 2-(904)
麦 こがひ ^{ほうねん} 豊 歳 (細判1枚) ——ゑびす大黒にて蚕飼、遠景に竿 に干してあるは麦か稻か			〃 2-(911)
安政四丁巳年 はつ春吉例御とし玉 —— (小横1枚)、大黒と弁天	鶯 斎 画		〃 2-(922)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
安政六年大小曆 ——福緑寿算用の体、歌と福緑寿 の着衣に2、4、5、7、8、 10の小の月	鶯 齋	(安政6年)	X・2-(935)
讃州象頭山真景(横1枚) ——ゑびす大黒にて文政丑歳の牛 絵馬を奉納		(文政12年)	〃 2-(950)
萬問屋 備中玉嶋 西錦屋利右衛門 ——(横1枚) 同店店先に七福神と 千両箱、歳旦摺物の一種か (記事文による)	長谷川貞信		〃 2-(961)
十一月六日火性の人うけに入る ——船上に福助、千両箱の上に立つ	鶯 齋 浅新越平 板	[嘉永5年 9月]	〃 2-(974)
八月八日木性之人有卦に入 ——宝船上の福神	——鶯齋芳藤 		〃 2-(975)
七 ^ふ ^く ^{じん} 不 供 人 (横1枚) ——七福神を金欲にしたもじり			〃 2-(976)
東京自慢 名物会(湯島) ——貼文で上段は湯島天神の魚十楼 右下に湯島芸者つる松、左下は 見立の天神染、題字下は扇形に 宝集家金蔵とありこれに“ピラ 辰”と朱、 X2-(982)まで揃物	梅素 薫 福田熊次郎	明治29年 8月 印刷 全年 発行	〃 2-(980)
東京じまん 名ぶつ会 ——上は松月堂菓子舗、下右は新吉 原の芸者、大黒屋しめ、下左は 浅草田圃西の市織、扇形には 「富本半平」	梅素 薫(案) 臨写印刷兼発行 福田 熊次郎	明治29年 9月 印刷 全年全月 発行	〃 2-(981)
東京自慢 名物会(よし町) ——X2-(980～) 揃物 上は宝来屋、下右によし町芸者 浜田屋太郎、左下はよし町織り 扇形は「桃川如燕」	梅素 薫(案) 臨写印刷兼発行 福田 熊次郎	明治29年 6月 印刷 全年全月 発行	〃 2-(982)






表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
明治十一年武州中米拾石建代米格附表 ——上半に店頭図、下半は格附表	守川周重 筆 鈴木半次郎	明治12年	X・2-(984)
明治二十一年戌子年略歴 ——系びす大黒、栃木倭町八百屋 半兵衛が引札に使用	揚堂玉英 遠州屋市兵衛 製		〃 2-(985)
質 店 帳 場 図 (墨摺) ——質草の鎧、下ゲ髪 <small>ゲ</small> の女は通帳を 手に主人は小判を取り出す 豎中央に2ツ折の跡あり、左下 隅には見当らしき墨あと	春 英		〃 2-(986)
心 学 雅 絵 得 <small>しんがくおなまとき</small>	一勇齋国芳  朝桜楼国芳		〃 2-(987)
俗 諺 戯 画 (1枚に4面、墨摺) ——“正直の頭に神やどる”亭主を 尻にしく“など”に戯画を添 える	狂齋 戯画 惺惺人狂齋  		〃 2-(989)
しりとり子供もんく ○ (藍摺)	芳 虎 	[慶應 2年]	〃 2-(993)
子供遊風あげくらべ (3枚続)	芳 虎 ① 遠 彦 彫工政	[慶應元年 10月]	〃 2-(999)
子 供 遊 (3枚続) ——「賣」字を子供達が組立中	一勇齋国芳 		〃 2-(1000)
乗 合 船 (横長1枚) ——万才鳥追、馬士、武家女風など が乗合の渡船、船首に松2本 飾り	北齋宗理 画		〃 2-(1001)
處 女 金 心 の 寫 真 (3枚続) ——げいしゃ、ごんさい、やと女、 下女、うば、子もりなど、店先 には「男女雇人口入所、すすめ や懸右衛門」のノレン	編輯人画工兼 出版人 犬塚喜三郎 彫工 片田 栄吉	明治13年届	〃 2-(1007)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
当 世 物 価 の 振 ^{にぎは} ひ (3枚続) ——物品を擬人化し、中央の男に吹 きとばされる	国 利 戯画 画工兼出板人 深瀬亀次郎	明治16年 12月届	X・2-(1008)
今 様 斗 婦 志 銭 内 宝 格 気 ——副題が銭形の中にあり	一勇齋国芳 玉 惣		〃 2-(1011)
人 間 萬 事 愛 婦 美 八 卦 意 質 請 の 婦 帆 ——半纏姿の女房、質屋帳場の前に 座り煙管をもつ	一勇齋国芳 ト 山 口		〃 2-(1012)
女 姿 江 戸 富 突 平 川 天 神 ——コマ図は平川天神、芸者の背後 には平川天神の富札か X2-1018 まで揃物	五湖亭 (貞景) △ 林		〃 2-(1015)
女 姿 江 戸 富 突 下 谷 六 阿 弥 陀 ——コマ絵は六阿弥陀、富興業の看 板札、本図には札売出しの立札 を1/2 見せる、コマ絵の下に 富札を重ねる、 札を買いに行く女	五湖亭		〃 2-(1016)
女 姿 江 戸 富 突 蔵 前 八 幡	五湖亭 △		〃 2-(1017)
女 姿 江 戸 富 突 芝 明 神 ——矢場女、X2-(1015) から揃物	五湖亭 △ ※		〃 2-(1018)
見 立 草 紙 洗 小 町 ——肌ぬぎにてゑりを洗う女	豊 国 ⊙		〃 2-(1019)
衣 喰 住 之 内 家 職 幼 絵 解 の 図 ——材木店にて大工が買入の景、 材木店番頭そろばんを入れる	曜齋国輝		〃 2-(1020)
江 戸 名 所 道 化 尽 四 十 三 初 音 の 馬 場 ——干してある染物に首をかけた 盲人、懐中から財布出て銭が 散乱	広 重 △ 辻岡屋	[万延元年 3月]	〃 2(1021)



表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
<p>当時流好諸喰商人尽 山くじら ——山くじらを記した店先のあんどん看板、食べ終わった客、財布から銭を取り出しおり</p>			X- 2-(1022)
<p>つくしの御祭礼 (横1枚) ——十二支の動物を擬人化して神輿をかつぐ、これにおひねりがとぶ</p>	倉		〃 2-(1023)
<p>長崎下り看々踊ノ図 —— (横1枚) 歌詞</p>	国安 ト		〃 2-(1024)
<p>お札降りお蔭参り図 ——同年8月に箱根から三州伊勢路におこったお札降り</p>	芳 員 	[慶應 3年 9月]	〃 2-(1025)
<p>よか ぶし元祖 東京改盛舎中 ——歌詞</p>	春 曉 筆 印刷兼発行者 森本 順三郎	明治23年12 月20日印刷 全年同月 26日出版	〃 2-(1026)
<p>子供遊世直し祭り ——子供の樽みこし、巾着をつけた子あり</p>			〃 2-(1027)
<p>今様見立六歌せんの段がかはれば ——からくり口上とあめうりとつけない手に変る、口上の嘉吉、米吉の着物に千両箱の模様、嘉永2年4月2日～中村座大切に「六玉川彩絵姿鏡」という見立六歌仙を上演、但し演者名未確認</p>	一勇齋国芳 並木湊小 版		〃 2-(1028)
<p>持 丸 散 財 図 ——大黒風の  が小槌から金を出し下で場末家主、かるこ、車力らがこれを受ける、地震後の絵か</p>			〃 2-(1032)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
本朝振袖之始 素盞烏尊妖怪降伏之図 —— (横1枚) 次号 X2-(1035)と同図	北 輝		X- 2-(1034)
本朝振袖之始 素盞烏尊妖怪降伏之図 —— (横1枚)、右枠外に「嘉永四 辛亥年秋新板」	北 輝	(嘉永 4年秋)	〃 2-(1035)
夢想兵衛 胡蝶物語の内 貧婪国 —— “あたじけ梨”の葉は銭、城の 石垣などは小判	芳 虎 版元 井筒屋	[万延元年 3月]	〃 2-(1036)
成田三非道女房開帳 (横1枚) —— 銭達磨の掛軸などを並べ、身上 寺役者の僧が説明の景			〃 2-(1037)
見立ちう身ぐら —— 6列3段に忠臣蔵のもじり、 最後は鯨退治にて安政地震の 鯨絵の一種であろう			〃 2-(1042)
寿出世大雙六 (2枚継)			〃 2-(1060)
御代豊民のにぎわひ [双六] —— 京・大坂に尾州・三州・堺・伊 勢でお札降りを主題とす	一養亭芳瀧 照磨堂彫龜 梓		〃 2-(1062)
寿出世大雙六			〃 2-(1063)
新板 ほうねんまんさく双六 —— 上りにゑびす大黒	越前屋 板		〃 2-(1064)
江戸名所見物双六 —— 上りは恵方参で大黒天、渦巻形	若狭屋		〃 2-(1065)
新板 福神道中雙六 —— 渦巻形	本問屋 佐野屋喜兵衛		〃 2-(1066)
新板 宝船福神雙ろく —— 渦巻形	広岡屋幸助 板		〃 2-(1067)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
新版江戸花呉服屋大雙六 (2枚継) 一一上りはゑひす大黒	英 泉 画 山城屋又兵衛 版		X・ 2-(1068)
丸 尽 持 丸 寿 古 六 (2枚継) 一一上り持丸長者、円形渦巻	芳 藤 画		// 2-(1069)
りやう うん かく しょ ぎよう ゆう くほん すご うく 凌 雲 閣 諸 業 遊 観 双 六 --- (豎2枚続 袋付) 各窓には商品、職人ら	麗齋春暁 印刷兼発行者 長谷川常二郎	明治23年 12月印刷 全 出版	// 2-(1070)
金毘羅開帳奉納物 十枚之内一 --- (横1枚、墨刷) X3-(20) まで揃、金銀錢細工物	一ノ坂成功堂 板		X・ 3-(18)
金毘羅開帳奉納物 十枚之内二 --- (横1枚、墨刷) 金銀錢細工物	一ノ坂成功堂 板		// 3-(19)
金毘羅開帳奉納物 十枚之内三 --- (横1枚、墨刷) 金銀錢細工物 万延元年四月六日開帳とあり	一ノ坂成功堂 板		// 3-(20)
高尾の全盛安直の群集 こ こん よしはら き だん 古 今 廓 奇 談 (横1枚、墨刷) 一一新吉原案内 (廓の始、年中行事 通言など)	菱川師宣 当世堂蔵	宝永四年 初秋	// 3-(21)
東海道神奈川在横浜 御貿易場 一一 (横1枚、2枚継)			// 3-(23)
天保改勢珍説増補 鯨年代雜記	思案房 述	嘉永四年 亥仲秋	// 3-(24)
將軍上洛拝領銀被下 (横1枚墨刷) 一一上段は被下高、役人名 下段は白州にて拝領の図		(文久 3年)	// 3-(26)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
新板 福徳宝黄金参詣 <small>ふく とく たから あふ こん ま り</small> <small>とび まはり すこ ろく</small> 飛巡双六 (墨刷) 一一山道形	五貞亭豊岡 画 松屋善兵衛 板元		X・3-(27)
高尾大夫 (横1枚) 一一画像と俳句 (君はいま……) と 2枚の色紙を重ねた形とす 台紙裏面に包紙	可保茶宗園 筆		〃 3-(28)
筑摩県博覧会 (横1枚) 一一松本城址にて11月10日より開催	広重 博覧会社		〃 3-(42)
天保通宝戯文 (横1枚、墨刷) 一一次の X3-(51)へ続く、当百の 発行を軍談調で諷刺 (絵入)			〃 3-(50)
天保通宝戯文 (横1枚、墨刷) 一一前の X3-(50)の続き、 絵入 (両替所)			〃 3-(51)
お札降り瓦版 (横1枚)		(安政 2年)	〃 3-(52)
当百山さんげ (横1枚、墨刷) 一一当百天保通宝を諷刺した“さん げ節”詞			〃 3-(53)
両替栢場戯文 (横2枚継、墨刷) 一一梓付2枚を横に貼継			〃 3-(54)
孝女はま御褒談 (横1枚、墨刷) 一一冒頭文章は中途につき前文欠 X3-(59) のつづき 今戸焼人形作りの図入			〃 3-(55)
両替屋金兵衛願懸違い (横1枚、墨刷) 一一相場の上昇を願がけせしに6才 の子息の足 (おあし) が上る 奇病を得			〃 3-(56)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
当 百 錢 戲 文 (横1枚、墨刷) ——当百が奉公する体の奉公人請状 の形式の戲文			X・3-(57)
新 古 錢 瓦 版 (横1枚、墨刷) ——狂歌3種と当百、波錢、鏝錢の 武家風擬人			// 3-(58)
孝 女 は ま 御 褒 談 (横1枚、墨刷) —— X3-(55)へ続く、凶入 今戸の土人形細工手伝う			// 3-(59)
北 雪 美 談 時 代 鏡 十八編上下表紙絵及下刷 (墨刷) ——為永春水作、区未新板 上段2段に上巻と下巻の表紙と 見返、下巻の見返に錢形	一寿齋国貞 画 若林堂 梓	安政 6年	// 3-(61)
名所錢掛松現景凶并に靈言記 (横1枚) ——金參錢	著作者兼発行者 懸 辨 阿 発 兌 田中多右衛門	明治23年 2 月25日御届 同年 3月 26日出版	// 3-(66)
金 見 立 六 歌 仙 (横1枚) ——六人の歌を金貨を主題に替え歌 とす、衣装、綉に貨幣模様	清 親		// 3-(78)
狂 齋 百 凶 (表紙) (小横1枚) ——小槌上に鼠、小判降る	惺々狂齋		// 3-(82)
京阪名所凶絵大阪江ノ子嶋政府の凶 —— (横1枚)、銀色部分に変色 宝価二錢五厘	京 芳国 画者 野村與七 出板人池田房治郎	明治18年 8 月28日御届 同年 9月 出板	// 3-(105)
新 板 富 貴 集 宝 寿 吾 六 (横1枚) ——渦巻形	梅雅政雪 画工兼出板人 奥井忠兵衛	明治15年 12月届	// 3-(113)
流 行 貨 紙 幣 双 六 (横1枚) ——渦巻形	著作印刷兼発行人 小林巳之助	明治22年12 月印刷出版	// 3-(114)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
大々御神楽之図 (横1枚)			X・3-(119)
文化七庚午年 江戸浅草本願寺御堂御上棟御規式略図 —— (横1枚) 大棟梁石塚志摩綱直 奉納の錢束を竿にかけ並べあり 一部を黄、朱2色刷	本願寺御書物所 辻村 五兵衛		〃 3-(120)
憲法発布式銀座街祝賀の図 (絵入朝野新聞号外) (縦1枚、銅版) ——上段に祝辞と前田夏繁、同母の 和歌、下段(2/3)は銀街の雑沓	哥川 国松 発行所朝野新聞社	明治22年 2月11日	〃 3-(181)
水戸錢座祭 (1巻、卷子木版) ——神輿行列図	東清寺 蔵版		〃 3-(229)